



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 七里公民館は市街地と見沼たんぼが広がり、都市的な生活環境と自然の魅力が共存している地区にあり、その特色を生かして、地域の写真の展示と映像を上映する事業を行っている。また、公民館まつりの際は地域内の障害者福祉施設利用者の作品を展示するなど、障害をもった方と地域とがつながることを応援している。
- 地域住民からは、高齢者向けの体操系講座を多く実施して欲しいといった声が多くあり、介護予防事業の中で独自の体操講座を企画・実施しているほか、高齢者を対象としたラジオ体操を毎朝実施している。また、公民館活動に関して公民館利用者から、自身の経験と知識を生かした有意義なアドバイスをいただくことがある。
- 公民館として地域住民のニーズに応える中で、これまでの学習や学び直しによって身に付けた知識・技能や経験を地域社会での活動に生かせる場、「学び」と「活動」の循環の場を提供できないかと考えた。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

●さいたま市公民館では、新たな学びの拠点として、新しい時代の公民館のあり方と中長期的な目標を明確にし、それを住民と共有するため、令和3年3月に「さいたま市公民館ビジョン」を策定した。

●【講師発掘講座】「私、こんな講座をできますけど」

地域の中に有為な人材が埋もれているのではないかと考え、公民館事業・講座の「講師」として活躍、デビューできる人材を発掘しようと企画したものである。また、時には受動的な立場から脱却し積極的に『発表』して、自らの問題意識を深化させることは、生涯学習の観点から大切なことだと考えた。講座名は「肩ひじ張らない」をコンセプトに固くないものとした。初めての試みであったことから、講師希望者の定員は6名程度とし、一人当たりの模擬講座時間を5～10分程度とした。結果的に講師としての応募は3名、加えて公民館職員4名もトライアルで参加した。

「既に身に付けたことを活かしたい」という意欲をすくいあげることに主眼を据え、講師と評価者がそれぞれ入れ替わり、役割交替・相互評価を行う形式とした。また、模擬講座に対する一般の方の評価も参考にしようと考え、観覧希望者も募集した。

結果として模擬講座の内容は良好で、一般観覧者からの評価も高かった。

講師発掘講座
「私、こんな講座をできますけど」

文学・歴史・体操・演劇など、あなたの知識・技能を生かし、地域の皆さんに伝えてみませんか？
プレゼンテーションの観覧希望者も募集します。

日時 令和4年1月27日（木）
10時～11時30分

会場 七里公民館

| 講師希望者 | 観覧希望者 |
|--|---|
| 募集人数：6名程度 申込み：12/23(木)～1/6(木) (12/29(水)～1/3(月)を除く) | 募集人数：30名程度 申込み：12/23(木)～ (12/29(水)～1/3(月)を除く) |
| 七里公民館での講座企画を前に、当日実際に5～10分程度の講師プレゼンテーションをしていただきます。 | 多種多様（予定）の講師プレゼンテーションを聞くことができます。終了後はアンケートにご協力ください。 |

講師希望者・観覧希望者とも、まずは七里公民館窓口または電話でお申込みください。講師希望者は、申込の申請書にプレゼン内容を記入していただきます。
申込み・お問い合わせ先：七里公民館 電話 666-4721

講座チラシ

3. 取組による成果や効果

- 当該講座に応募した3名とも翌年度の講座講師としての起用が決定し、地域人材の発掘と「学び」と「活動」の循環の場の提供につながった。
- 既存の仕組みにエントリーしていない、意欲をもつ人材が地域にいることを確認できた。
- 意欲はあるけれど、講師を務めるには自信がないという人を聴講・評価者役として受け入れることで、「自分にもできるかも」という背中を押すきっかけづくりともなった。
- 公民館職員も講師役を務めることで、講座企画・講師選定の際の留意・着眼点を広げ深めることができ、さらに職員自らが講師を務める可能性も広げることができた。



公民館職員も講師役に挑戦

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 講座参加者へのアンケートや講師等事業関係者とのコミュニケーションの中で、感想や意見を伺う。
- 七里公民館連絡会や七里公民館利用団体代表者会議において、地域の方や利用団体からの意見を集約している。
- 公民館職員同士で情報共有や話し合いを行い、課題の発見・解決を図っている。また、他館の取組も参考にするなどして公民館運営に活かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

当館のキャッチフレーズ「地域のリビングルーム」は、地域の人々が気軽につどい、学びを通じてつながりを深める場、地域のつながりの拠点となることを目指したものである。これまで積み重ねてきた地域諸団体・関係機関・企業等、多様な主体との連携を一層広げ深め、やすらぎ憩う場として課題も解決できる地域のリビングルームとなっていきたい。



親子サロン

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 子育て世代・ファミリー層・学生・若者を取り組むために、事業内容や開催日時についてニーズに合ったものとなるよう、これからも検討していく。
- 異世代での公民館サークル活動を企画した事業活動を心掛け、結果として「地域力の向上」につながるような運営を心掛けていきたい。



夏休み子ども公民館「マイ著作